

カーボンニュートラルを実現する、夢のエネルギー源。
環境メガトレンド投資の大本命

ワンポイント
One Point

水素

nikko am
Nikko Asset Management

vol.2

水素に「色」があるってホント？

2050年のカーボンニュートラル実現に向けて、切り札として期待される水素。水素は、無味無臭・無色透明な気体なのですが、原料や二酸化炭素(CO₂)排出の有無によって、大きく3つに色分けされています。

化石燃料を原料とし製造過程でCO₂を排出する「グレー水素」、グレー水素の製造過程で生じるCO₂を回収する「ブルー水素」、再生可能エネルギー由来の電力を利用し水を電気分解しCO₂を排出しない「グリーン水素」の3つです。

残念ながら、現在流通している水素の9割以上は、そのコストの低さからグレー水素です。エネルギー源として使う際にCO₂を発生させなくても、その製造過程でCO₂を排出してしまっただけではクリーンなエネルギーとは言えません。そのため、欧州を中心に、製造時においてもCO₂が発生しない、グリーン水素の製造を目指す動きが活発になっています。

■水素は製造過程で色分けされる

	製造方法	CO ₂	1キログラムあたりのコスト
グレー水素	天然ガスや石炭などから水素を取り出す	大気中に放出するため温暖化の原因に	1~2米ドル
ブルー水素	天然ガスや石炭などから水素を取り出す	回収・貯蔵することで排出を実質ゼロに	2~3米ドル
グリーン水素	水を再生可能エネルギーで電気分解して水素を生成	製造工程で発生しないため環境にやさしい	2~9米ドル

各種報道をもとに、日興アセットマネジメントが作成

○当資料は、日興アセットマネジメントが「水素」についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。○投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産は為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。